日本キリスト教団 東金教会〔３８〕

2019年9月22日 聖霊降臨節第１６主日礼拝

年度目標 《キリストに根を下ろして生きる》

聖　句 キリストに根を下ろして造り上げられ、教えられた通りの信仰をしっかり守って… コロサイ2章7節

【礼拝式次第】

司式	森川
奏楽	中村
受付	坂本
案内	武田
名札係	藤田
礼拝感謝祈祷	武田
〃　〃	岡村
前奏	中村
讃美歌５５	一同
使徒信条５６６	〃
交読文３６	司・会衆
主の祈り５６４	一同
聖書 ガラテヤ書２：１７～１９	司会者
祈祷	森川
新聖歌３１６	一同
み言葉の伝え	中村
〈私にとって生きるとは〉	
讃美歌５３４	一同
献金	
礼拝感謝	武田
〃　〃	岡村
報告	森川
頌栄５４１	一同
祝祷(派遣)	中村
後奏 新聖歌５８	聖歌隊

【集会案内】

聖書研究祈祷会 9月25日(水)午後7時半～
早天祈祷会 月～金7時(除祭日)メーヤー館
聖書輪読会 9月29日(日)9:50-10:10
礼拝準備祈祷会 9月29日(日)10:25-10:30

【報告】

☆９月１６日阿部　　兄が帰天され，本日午後０時３０分より第二会堂で葬儀が持たれます。　子夫人始めご遺族の上に主のお慰めが豊かにございますようお祈り致します。

☆新行内　兄が脳梗塞により千葉　　病院にご入院中との事です。　兄のため、また　子夫人のためにお祈り下さい。

☆明23日(秋分の日)教会学校・幼稚園・保育園合同運動会が幼稚園グランド(雨天の場合は東金中体育館)でもたれます。是非みなさまおいで下さり教会学校生徒、幼・保園児をお励まし下さい。

☆次週9月29日の礼拝は梅田　　先生に講壇をお守り頂く予定です。お覚え下さい。

☆１０月１日(火)は教会創立１３０周年記念日です。神の御護りの中で今日迄の歩みを続けて参りました。これを覚えながらこのときを過ごしたく思います。

☆星野富広カレンダー本日迄に申込頂くと消費税が８パーセントとのことです。申込下さい。

【９月22日～９月28日誕生者】

○五木田　　兄　○下倉　　兄
○吉川　　兄　※互いに主に繋がる枝々として祈り合わせて参りましょう。

【先週集会状況】

集会名	男	女	計
主日礼拝(9/15)	13	26	39
聖研祈祷会(9/18)	4	4	8
聖書輪読会(9/15)	2	2	4
教会学校(9/15)	9	11	20

早天祈祷会 日	男	女	計
9/16			
9/17	1	1	2
9/18	1	1	2
9/19	1	1	2
9/20	1	1	2

主日礼拝献金(9/15)……３８,３８１円
教会学校献金(9/15)……８,１５０円

【今日のメッセージ】

題　［私にとって生きるとは］
聖　書　ガラテヤ書２章１７節～１９節

1・断じてそうではない

2・枷を壊す

3・私たちにとって生きるとは

【次週(９月２９日)礼拝式案内】

み言葉の伝え　〈人の前か，神の前か〉
聖　書 ルカ福音書16:19～31
交読文３７
讃美歌６２番　３４９番
新聖歌３３０番

【次週(9月29日)礼拝式当番者】

御言葉の伝え	梅田
司式者	井上
奏楽者	中村
受付者	阿波谷
案内者	土屋
名札当番	安延
礼拝感謝祈祷	藤本
〃　〃	五木田
csお話し	森川
会堂清掃者	幼稚園教諭
〃　〃	
花係	中村
看板書き	澤本

【聖書から】

「だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる。」
ルカ福音書十四章十一節

「イエスは、招待を受けた客が上席を選ぶ様子に気づいて、彼らにたとえを話された」と始まる話は、ただ単に上席を好んで座ることさえしなければ良いと言っているのではない。他人に傲慢に見えるようなことを控えるよう、私達をたしなめることではないのです。この喩えは私達の神への態度を示し、振り返させるものです。社会的位置や知名度、宗教的敬虔さ評判などで人と比較し、自分こそ上席に相応しいと秘かに思ったり、人前でそれを認めてもらうことを喜びとするなら、招待した主人の意図を差し置き自分に栄誉の座を要求するのと同じです。そこが何をする場であるのか、そこに招かれていることへの喜びや感謝、祝いの思いよりも自分への扱いばかりに気が取られている状態となるのです。ここでの喩えはファリサイ派の人々や律法の専門家たちへの批判を含んでいるのですが、決して彼らだけのことではない。当時、人に蔑まれていたガリラヤ出身の漁師達を中心とした弟子達の中でさえ自分達のうち誰が一番偉いかという議論が起きていたと聖書には記されています。主イエスを囲んで神の言葉を聞き、キリストを通して神の業を見、その み心に触れながらも常に上席は主イエスでなく、自分、自分の都合、自分の利益、自分の思いが占めている私達の態度を映し出していたのです。そして、この喩えでもう一つ思い巡らしたい言葉は「お返し」です(一四)。「そうすれば、その人たちはお返しができないから、あなたは幸いだ。」お返しを当てにしての業で神の救いに与る訳ではありません。私達の愛の業を必要とする隣人は私達の業による報いを頂くための道具ではないのです。共に主に招かれ、食卓を囲み飲み食いする招待客の一人ひとりです。主が私達を救い、ご自分の食卓へと招いて下さったのはただ神の憐れみ深い愛の故であることを忘れてはなりません。主の食卓に座る誉れは取るのではなく、神から受けるものです。その座に招かれている恵みに感謝し喜びの内に主と共に、人々と共に歩みましょう。

【礼拝心得】

①礼拝は前奏から後奏までを守る。
②入堂したら私語を交さず、前奏までの時を黙想する。
③遅れてきた者は静かに入堂し、特に祈祷の時は入堂を控え、その場で共に祈りを守る。
④礼拝後は互いに挨拶を交し、交わりの時を持つ。
⑤各自週報棚を整理し、欠席者に週報を届ける。